

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社 メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	1階
所在地	延岡市北川町川内名8307		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&amp;liyosvoCd=4572100578-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&amp;liyosvoCd=4572100578-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、入居者の方が楽しみを持って笑顔で過ごしていただけるよう、本人と家族の希望により、柔軟なサービスを提供しております。「同窓会に出席したい」と言う方に職員が1名同行し、会場の外で何か困ったことがあった時のために待機をしたり、「お盆を家で過ごしたい」という方に、入居者の方が安全に自宅で過ごせるよう、職員が自宅に出向き自宅でのトイレ介助方法や移動方法をご家族にお伝えするなど、「施設に入っても色々なことができる」を実現するようにしている。また、認知症介護指導者としての活動や認知症の人と家族の会の世話人としての活動もしており、地域への認知症に関する啓発活動を活発に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたのゆっくりを笑顔で待ちます。あなたをもっとよく知りたいので、知識や技術を身につけてあなたから学ばせていただきます」という理念を作成し、実践に努めている。地域や行政との関係づくりに努め、管理者は、認知症サポーター養成講座や介護講座の講師を務め、認知症の人と家族の会の世話人として認知症に対する啓発活動を積極的に行っている。運営者は職員の資格取得やホーム内・外の研修参加に理解があり、職員の資質の向上を支援している。利用者の入・退去が複数あり、帰宅願望者や不穏状態の利用者への対応に追われたが、個別に対応し、現在は利用者の状況も落ち着いてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて「認知症ケアについて大切なこと」について職員間で話し合い、自分たちで理念を作成し、見やすい所に掲示するなど、実践につなげる努力をしている。	全職員で認知症ケアに必要なことをKJ法(問題解決技法)を用いて検討し、理念を作成している。認知症介護実践者研修受講者が理念についての職員の自己評価を実施するなど努力しているが、理念が実践に十分つながっているとはいえない。	勉強会や話し合いを重ねて、理念を共有し実践につなげることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近隣は住民が少ないが、行事に招待したり文化祭などの出展などして交流を図るよう心掛けている。	管理者は認知症サポーター養成講座や介護講座の講師、他のグループホームの運営推進員を務めている。毎年、地域の人に参加を呼びかけ、納涼祭を実施している。中学生の職場体験実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症に関する出前講座などを行い、地域の人々に向けて認知症の理解を深めようと努力している。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会ではホーム内のイベントや様子、出来事、事故などを報告し、皆さんからの助言などをいただき、サービスの質の向上に活かしている。	車椅子の利用者が多い時に、委員から車椅子上でもできる体操の資料の提供を受けたり、求人のアドバイスをもらうなどしている。ホーム側が出席者に相談できる関係を構築している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方や地域包括支援センターの方に入居者本人やご家族の対応に困難が生じた場合など、相談したり協力をいただくなどの連携をとっている。	本庁、支所との連携が密に取れている。地域ケア会議でも議題を提供し、検討したり、相談できる関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	8月、9月に入居された方が多く、ホーム内が落ち着かない状況である。帰宅願望のある方が常に玄関で外に出ようとするため、現在は玄関の鍵を閉めている。	施錠の弊害について十分理解し、1対1の対応に努めているが、職員配置によりやむを得ず一時的に施錠をすることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング時に繰り返し研修を行い、そのような事が起きないように、職員のストレスケアを含めて、面接を行うなど努めている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングなどにより、日常生活支援事業や成年後見制度について研修を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、ご利用者様やご家族様に十分に説明を行い、納得していただくよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、ご利用者様やご家族様が意見や要望を言いやすい環境・関係作りに努めている。今後はアンケートを計画している。		家族から玄関のインターフォン設置の要望があり、現在準備中である。対応が困難な家族には管理者が対応し、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の管理者会議にて、職員の意見などを代表者を含めて話をする機会を設けている。また、個別に面談などを行い意見を聞くようにしている。		副施設長が朝礼に出席しており、意見に対する反応が早い。ステップアップのための配置替えの希望にも早く対応している。希望休や有給休暇、備品の交換など、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員とも十分に話をしており、個々の職務に対するやりがいや意欲を理解しながらステップアップや異動、条件などに反映している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員に対して研修を受け機会の確保や資格取得のための支援を取り入れている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	延岡市内の他事業所と交流会をしたり、情報交換をしたりと、サービスの質の向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時や事前訪問時には、まず十分に話を聞き、ご本人の困っている事や不安に思っていることを真剣に傾聴し、気持ちを理解するよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や事前訪問時、本人とは別な場所にて、まずは十分に話を傾聴している。質問形式ではなく、ご家族の流れで話していただくように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の話を聞いて、当ホームに求められているものについて、可能な限り対応していくよう努力している。お話の中で求められているサービスが別なサービスであれば、他施設を紹介することもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の言動から、やはり「してあげている」という気持ちがうかがえる。今後も定期的な研修が必要と思われる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係には十分に配慮しており、時にはご家族の支援を行う場合もある。毎年、4月にはご家族と一緒に準備などを行う花見会を計画している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていた理美容室に行ったり、以前に通っていたデイサービスに行ったりして、友人や近所の方、馴染みの場所に行けるよう支援に努めている。	同窓会の幹事と連携し、利用者の同行支援を行うこともある。また、意思疎通が困難な利用者とのふさふさと訪問を行い、一緒に食事をし、親族と穏やかな時間を共有できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士の関係を把握し、十分に配慮しながらテーブルの配置やレクリエーションなど工夫をしている。孤立している入居者については、職員が対応するなどの支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じてご家族に連絡を取ったり、相談があったときには対応をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を十分に把握するよう努めている。把握が困難な場合は、「この方は何を望むだろうか」と検討するようにしている。	困難な場合でも、これまでの経緯から長期に入居している利用者とのコミュニケーションは図れており、仕草や行動によりゆっくり話しかけたり、複数の選択肢を提示して緩やかに対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様が、どのような生活をしてこられて、どのような環境の中で暮らしていたのか、十分に把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の基礎疾患や心身の状態を十分に把握し、リスクも考慮しながら有する力の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、必要時は医師などと話し合いを行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	職員の意見を介護計画に反映している。担当制になっており、介護計画とケアの連動が見られるようになってきたが、個々の利用者の介護計画を全職員で共有できていない面がある。	個別の介護計画について職員が共有できるよう周知し、実践につなげることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、気づきなどを記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により“行きつけの理容室”を利用したり、買い物に行ったりしている。時には家族、関係者と連携をとって職員が同行し、学生時代の同窓会に出席するなど、柔軟に支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	キーパーソンや本人の認知症の状態により、グループホームだけでの対応が困難な場合は、地域包括支援センターや警察、行政などと連携を図り、安全が保てるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又は家族の希望するかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。認知症の専門医や歯科、耳鼻科などの受診も行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により健康管理を行っており、報告・連絡・相談を密に行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様やご家族が安心して入院生活が送れるよう情報交換や連携は密に図っている。また、入院中も退院に向けて無理のないよう数回の面会に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に、まずは十分な説明と同意をし、書面化するようにしている。また、終末期になると考えが変わることもあるため、その都度意思確認を行うようにしている。		入居時に指針について説明し、覚書を交わしている。また、終末期に向けた意志の再確認も行っている。ホームでできる終末期のケアを可能な限り提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回は救急法の研修を行い、新人職員を中心に初期対応、AEDの使用方法など身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回は避難訓練を行わなければならないところだが、昨年度は施設の増築により工事が多く行われていたため、1回しか行うことができなかった。今年度はすでに4月に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に行えていない。職員の知識不足により認知症の方への言葉かけや態度が誇りを損ねているように思われる。段階的な研修や他施設の訪問、職員のメンタルケアが必要。		敬語で話しかけていても、思いのこもっていない言葉かけになっていることもある。	接遇研修を実施するなど、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めるよう取り組むことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方については、更衣の服を選んだり、外出時に何か食べたいものはないかなど、好きな物を言ったり選んだりする機会をつくっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やはり、どうしても職員側の都合を優先したり、些細なことなのに、入居者の希望を叶えられていない現状がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色の服や朝の整容時にひげを剃ったり、身だしなみを整えることができるよう、できる限り支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は入居者の方の重度化により食事形態(刻み・ねり粥・ミキサー等)にも変化がみられるようになり対応をしている。後片付けなどを一緒に行い、楽しく食事ができるよう支援している。		利用者の食事中に、職員は洗い物などの片付けや記録をしており、検査者だけが利用者と一緒に食事をしている。下膳などできる利用者に対しても職員が行うこともある。	職員も利用者と一緒に食事を楽しみ、また、利用者の残存能力を大切に考え、理念の再確認をするよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足にならないよう、食事以外に2回の水分補給を行い、食事摂取量も毎回記録するようにしている。摂取が少ない時には、医師に相談しながら栄養補助食品などを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の状態に応じて、毎食後に口腔ケアを行ったり、自分で歯磨きをしたりしている。ストレスになるようであれば、就寝前に必ず行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は紙パンツにパットを使用しているが、声かけやトイレの誘導により布パンツでパットに変更をしたり、なるべく自分でトイレに行くよう支援を行っている。		排せつチェック表を活用し、トイレでの排せつを支援している。常に話し合いながら紙おむつからリハビリパンツ、布パンツ使用になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方が多く、水分補給に努めたり、散歩に出かけたりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合であるが、毎日午後入浴となっている。介護抵抗のある方は、無理強いすることはしないように、天気や本人の気持ちの状態を考慮しながら対応している。		原則、土曜日は外出を優先し、入浴日とはなっていないが、利用者の状況により柔軟に対応している。1日3～4名が入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事が終わると居室に行き休息している方もいれば、ずっと起きてテレビを見たりしながら過ごしている方もいる。心地よい休息になるよう体操や合唱をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の目的などは理解できていない。用法や用量は十分に理解している。薬が変わった時には特に変化に注意し、医師や看護師へ報告などしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に行動される方については、台所の片付けをしていただきながら、気分転換に外食したり、行きたい所に行ったりしている。意思疎通が困難な方については、季節を感じるような外出や家族との交流を支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	同窓会の案内に迷われている家族に対して、主催者も協力し、職員が同行することで学生時代の同窓会を楽しんでいただいたり、天気の良い日にはドライブに行ったり、色んな可能性を実現できるよう支援している。		広い敷地内を日常的に散歩している。利用者は管理者が用事で外出する際に同行している。道の駅へのドライブや受診時の外食などを支援している。家族の協力でも外出支援も行っている。土曜日には「ドリームプラン」という外出を企画し、支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、1階の入居者の中では1名のみ少額のお金を所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所からいつでも電話などできるよう支援しており、数名の方が「電話してほしい」と言われ、時折電話をかけている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境ではあるが、色々な音(職員の足音・会話の声)などは、まだまだ入居者の方にとって居心地が良いとはいえない。		利用者の身長に配慮して、高さを低くした椅子も配置している。ソファの形態も同一ではなく、利用者が選択できるようになっている。リビングの一角が対面式の台所になっており、生活感や季節を感じることができる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではないが、事務所がそのような役割となっており、時折、事務所で独りになって過ごしている方もいる。ソファの並び(気の合った入居者同士で座っている)やテーブルの座る位置などに十分に配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に対してお話しているが、使い慣れたものなどは少ないように感じる。認知症の症状によっては、とても殺風景な居室になってしまっている。		ベッド以外は持ち込みの品になっており、たんすの上に写真を飾り、毎日お茶と水をあげる利用者もいる。利用者の状況に応じて居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は廊下両面に並んでおり間違いやすいため、居室の前に名前を表示したり、理解の困難な方は案内をしている。歩行が困難な方については夜間センサーを使用し、トイレに案内したり、見守りを行ったりしている。			